

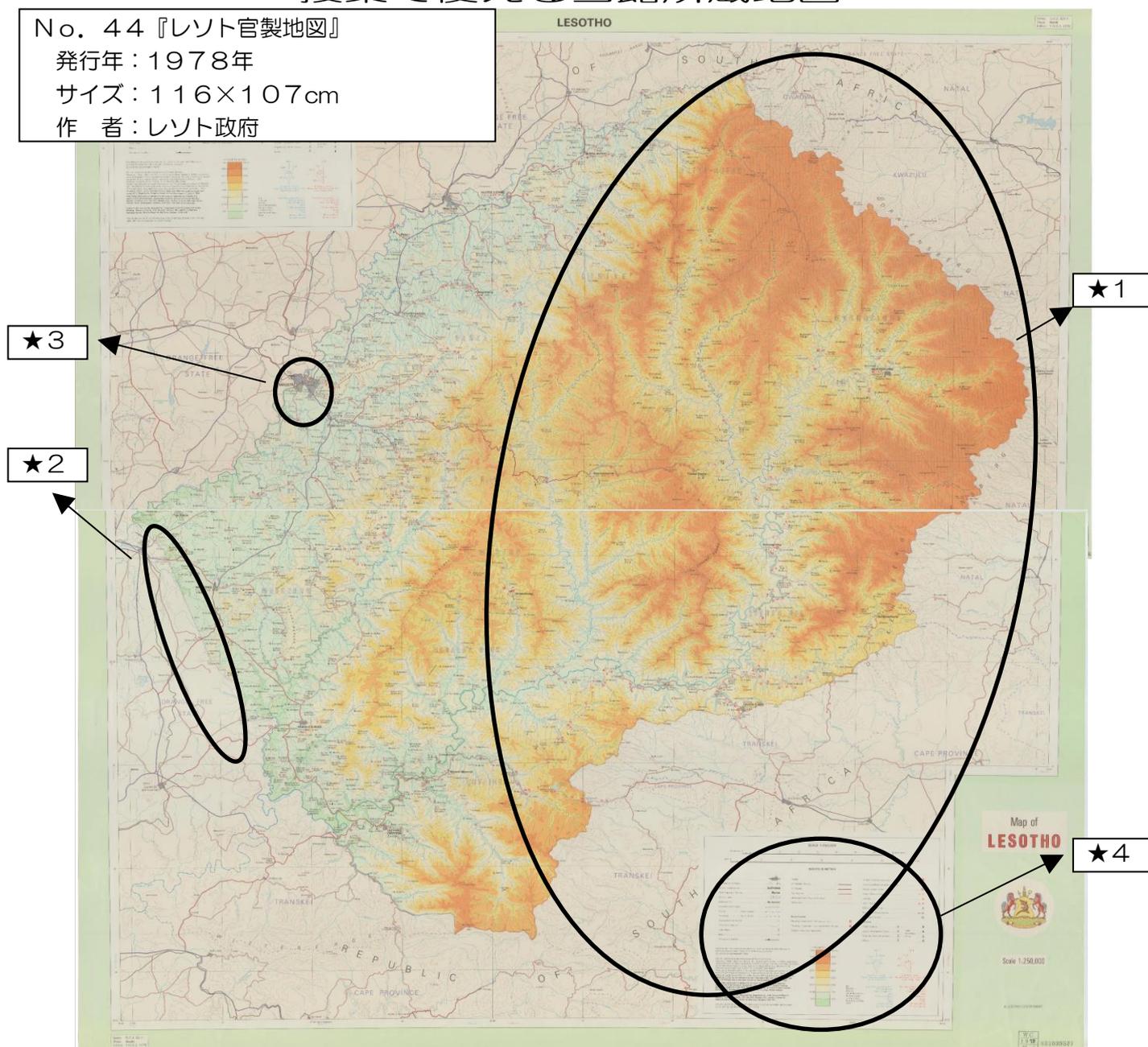
授業で使える当館所蔵地図

No. 44 『レソト官製地図』

発行年：1978年

サイズ：116×107cm

作者：レソト政府



【解説】

レソトは周囲を南アフリカ共和国に囲まれた内陸国である。国の中に国があるという特異な状況がいかにして生まれたかは歴史を紐解いていく必要があるが、ここでは地図から読み取れる情報とし、どのような場所が国境として設定されているかに注目したい。国境は自然的国境と人為的国境に大別されるが、国境は山脈・河川などの自然の障壁がもとになった自然的国境が多い。レソトも大部分は山脈や河川を利用した自然的国境であり、どこが山脈を用いた国境か、どこが河川を用いた国境かを地図で確認してみると良い。この地図は小縮尺であるが等高線の記載もあり、土地の起伏がカラーで分かりやすいので、判別は容易である。

また地図に欠かせない地図記号を見ることで、地図に描かれた国の文化的特徴をうかがい知ることができる。普段目にする事のない外国製の地図であっても、汎用性が高いことを実感できる地図であると言える。

★1 東部山岳地帯の国境線（自然的国境）

3000m級のドラケンスバーグ山脈の尾根線に沿って国境線が設定されている。山脈は自然国境として用いられることが多く、スペインとフランスの国境となっているピレネー山脈や岩手県と秋田県等の県境となっている奥羽山脈など、あらゆるところで用いられている。レソトにおいても、南部の Ben Macdhui(3001m)から北部の Mechachaneng(3167m)付近にかけて、東部は山脈が自然国境となっており、標高の高い山岳地で、とりわけ東部から北部にかけては標高が高く、交通路がみられないことから、比較的隔絶性は高いと考えられる。

★2 西部丘陵地の国境線（人為的国境）

スワジランド西部に直線的な国境線がみられ、人為的国境であると判断できる。人為的国境は植民地分割の影響もあり、アフリカ諸国に多くみられ、民族分布とは無関係に設定された国境が、民族紛争の火種となることも多い。ここでは経緯線を利用しているわけではなさそうである。

★3 レソトの首都（マセル）

レソトは西部の標高が低く、人口も西部に集中していることが推察される。首都のマセルは、南アフリカとの国境付近に立地しており、空港やホテル、病院や警察署などの表記があり、国の中枢機能が集積していることが読み取れる。マセルの市街地(Main Town)の表記から、マセルがレソトの人口最大都市と考えられるが、他にも西部の国境付近を中心に Maptsoe, Mafeteng, Mohale's Hock などの市街地表記のある都市が複数みられ、マセルがいわゆるプライメートシティと言い切れるかは地図からは断言できない。(統計によると、レソトの人口は212万人(2015)、マセルの人口は26.6万人(2014)である)

★4 凡例

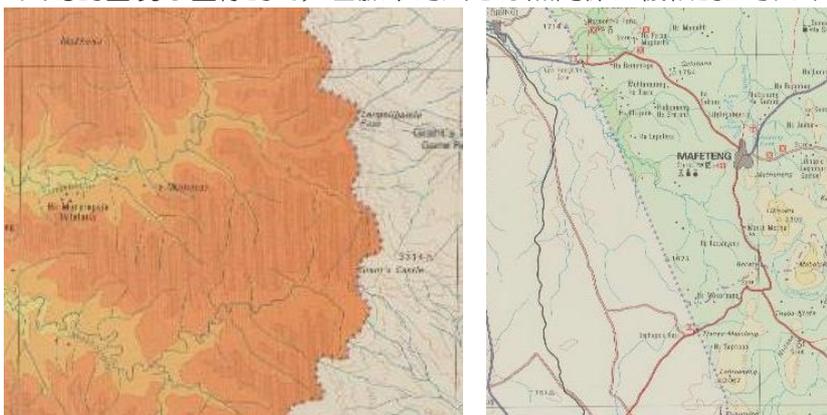
地図記号は時代とともに変遷し、また万国共通のものではなく、お国柄が反映されている。レソトの地図の凡例から、植民地支配の影響もあり、キリスト教に関する施設(教会)の表記も、ローマカトリック、イングランド国教会等、宗派ごとに異なる記号を用いていることも特徴的である。その他、道路状況を段階表示(洪水の頻度をアルファベット表記)し、交通の便宜を図っている。また、磁気偏差(真北と磁北との差)も記載されており、日本に比べて偏差が大きいこともわかる(ただし年代が古い)。

【活用の例】中学校社会科・地理的分野「世界の国々と地域区分」や、高等学校地理歴史科・地理B「現代世界の国家」などで活用することができる。

1. 国境を見比べることで、自然的国境と人為的国境の違いを理解することができる

→自然的国境は山脈の主稜線を利用し、分水嶺となっている(下の左図)。川を利用している場合もある。

→人為的国境は直線的で、山脈や河川とは無関係に機械的に引かれている(下の右図)



2. 身近な境界を調べることで、汎用性が高まる

→岐阜県における県境、岐阜市における市境は何を利用しているか調べることにより、境界のもつ意味を考察することができる

【自然的な境界の利便性と脆弱性(例:羽島市と津市の境界、アメリカとメキシコの境界)、人為的な境界がもつ問題点(例:アフリカの植民地分割)の考察】

→日本には海という自然的国境があることで、大陸諸国と比べると国境のもつ意味合いが異なることを考察することができる。

【民族・領土問題の考察の例:インドとパキスタンの領土問題(カシミール紛争)】

3. 地図記号の凡例を見ることで、自然環境や文化的特徴を理解できる

→標高の階級区分1500m~3000mまで250m刻みで、全体として標高の高い国であることがわかる。

山地が多く、耕地に恵まれないこと、緯度・高度から考えると、比較的冷涼な国であると推察できる。このことから、どのような農業が行われているか考察するのも興味深い。

→地図記号にはキリスト教の教会に関する記号が宗派ごとにみられ、キリスト教信仰の強さをうかがい知ることができる。

【参考文献】

- ・二宮書店編集部『データブックオブザワールド 2017年版』(二宮書店 2017)
- ・『新詳地理B』(帝国書院 2017)